

## 第2章 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

#### 自然環境の概要

安倍川は流路延長が比較的短く、1,500m～2,000m級の高山から一気に駿河湾に注いでいるため河口部でも約1/250の急勾配であり、わが国屈指の急流河川である。源流部には日本三大崩れのひとつに数えられる大谷崩をはじめ多数の崩壊地があり、特有の自然景観を有しているとともに、上流域からおびただしい砂礫を流出しており、静岡市街地をひかえる下流部の扇状地も川状はかなり不安定で、古くからしばしば洪水の被害を受けてきた。

安倍川最上流部は、赤石山脈の前山を形成する起伏の大きな山地帯で、これらの山々は奥大井県立自然公園に指定されている。全般に急峻で谷が深く、山地の崩壊も多い。大谷崩を含む安倍川上流部の地質を構成する砂岩と頁岩は、断層・褶曲によって破碎が著しく、全体が極めてもろい地盤となっている。上流部の山地には、自然植生のブナ・ミズナラ・コメツガの原生林や、オオイタヤメイゲツをはじめとしたカエデ類の純林、代償植生のアカシデ・イヌシデ群落、スギ・ヒノキの人工林などが分布している。このような樹林地帯には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)に基づく国内希少野生動植物種に指定されているクマタカをはじめ、同じく樹林の環境に依存するレッドデータブック準絶滅危惧種ヤマネ、静岡県版レッドリスト情報不足種ホンドモモンガ、ニホンカモシカ、中・高山帯の溪流周辺に生息する静岡県版レッドリストの絶滅危惧類ヒダサンショウウオ・ハコネサンショウウオなどの動物が生息している。



大谷崩

安倍川上流にあり、日本三大崩れの一つ。1707(宝永4)年の大地震で本格的な崩落が始まり、今までに崩落した土砂の量は約1億2000万立法メートルといわれる。



ハコネサンショウウオ  
標高500m以上の山から亜高山帯に生息する。(下土居知子氏撮影)

溪流は静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種カジカ、同リスト部会注目種アマゴ等の清流を好む魚類等が生息しているとともに、多くの滝や河岸段丘崖など変化に富んだ景観を形成している。

中流部の沿川にはスギ・ヒノキの人工林が多く、河岸にはコナラ群落、シイ・カシ萌芽林などの樹林が連続する。林内には、無脊椎動物レッドリスト（環境庁）準絶滅危惧種オオムラサキ、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種モリアオガエルなどが確認され、ホンドモモンガ・ニホンカモシカ・ウスバシロチョウ・クロコノマチヨウなどが生息している。

下流部には、安倍川の流出土砂によって形成された扇状地面上に静岡市の市街地や田園地帯が広がり、山裾にはスギ・ヒノキの人工林と、温暖な気候を特徴づける茶畑やミカン畑が連なっている。

### 安倍川流域の生物

多数の崩壊地を抱える上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、山伏岳から安倍峠にかけての標高が高い山には自然植生のヤマボウシ・ブナ群落、イヌブナ群集、八紘嶺にはコメツガ群落などが見られる。安倍川の河川敷は全般に植生の分布が少なく裸地化したところが多いが、上流部の比較的安定したところではヤナギ・ヤシャブシ等の河畔林が見られ、急峻な峡谷部にはシイ・カシ等の萌芽林やコナラ群落等が分布している。また中・下流部は河床が安定せず流路が絶えず変化するため、高水敷にはヤナギ類が点在し、川原にはカワラヨモギ・オオアレチノギク群落といった不安定な川原に代表される植物が見られる。一方、河口付近では、シオクグ・ハマヒエガエリなどの植物が見られる。中・下流部および藁科川には流水縁等に生育するレッドデータブック準絶滅危惧種カワヂシャが広い範囲で確認されているほか、河口付近の浅い水域にはレッドデータブック準絶滅危惧種ミクリが確認され、ガマなどの湿性植物が生育している。

安倍川流域にすむ哺乳類は、上流部には周辺の豊かな樹林環境を反映してヤマネ、ホンドモモンガのほか、タヌキなどが生息している。また中流部には、コウベモグラ・タヌキ・イタチ・ネズミ類・ハクビシン・ニホンイノシシなど、下流部ではタヌキ・イタチ・コウベモグラ・ネズミ類などが確認されている。また、中



ミクリ

池や溝など浅い水中に生える多年草。絶滅が危惧されている特定種。



ホンドモモンガ

低山帯から亜高山帯の森林に棲息し、夜行性で樹上で行動する。

流部および藁科川ではススキ・オギなどイネ科の植物を利用して球形の巣を作る、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種カヤネズミが確認されている。

安倍川流域にすむ両生・爬虫類では、上流部には中・高山帯に生息するヒダサンショウオ・ハコネサンショウウオ、静岡県版レッドリストの準絶滅危惧種カジカガエル、同リストの情報不足種ナガレタゴガエルなどの溪流や山地にすむ種類が確認されている。中流部では、カジカガエル・モリアオガエル、静岡県版レッドリストの部会注目種アズマヒキガエルのほか、ツチガエル・ヌマガエル・カナヘビ・ヒバカリ・ヤマカガシなどが確認されている。下流部では静岡県版レッドリスト分布上注目種ニホントカゲ、同リスト部会注目種トノサマガエルのほか、アマガエル・ヌマガエル・ツチガエル・カナヘビ・アオダイショウなど平地に多く見られる種類が確認されている。



カジカガエル  
山地の溪流や周辺の森にすむ  
(下土居知子氏 撮影)



ヒダサンショウウオ  
山地の溪流や周辺の森にすむ



ナガレタゴガエル  
低山地の森林地帯の溪流にすむ。タゴガエルに似るが水かきがよく発達している。

安倍川流域にすむ魚類では、上流部にはカジカ・アマゴのほか、イワナなどの溪流魚が見られる。中流部では静岡県版レッドリスト部会注目種タカハヤ・シマドジョウが確認されているほか、アユ・ウグイ・オイカワ・ズナガニゴイなど、河川中流域の瀬や淵の環境に生息する種類が多い。下流部ではレッドデータブック準絶滅危惧種シロウオや、静岡県版レッドリストの準絶滅危惧種カマキリのほか、ウナギ・オイカワ・ウグイ・アユ・ヌマチチブ・回遊性ヨシノボリなどが確認されている。また、安倍川・藁科川ではレッドデータブック情報不足種に該当し地下水で生活するイドミミズハゼが確認されている。



アマゴ  
年間を通して水温が 20 以下の  
渓流域に生息する。  
(村上俊明氏 撮影)



アユ  
夏の香り高い魚として水産資源として  
も貴重



カマキリ(アユカケ)  
川の中流域を中心に生息し、産卵期  
に川を下り沿岸近くで産卵する。

安倍川流域にすむ鳥類は、上流部ではクマタカ、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)に指定されている国内希少野生動植物種オオタカをはじめ、レッドデータブック準絶滅危惧種ハイタカ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧 B 類コノハズク、同絶滅危惧 類カワセミのほか、オシドリ・ヤマセミなどが確認されている。中流部では種の保存法による国内希少野生動植物種ハヤブサ、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種イカルチドリのほか、カワセミ・ヤマセミ・コチドリ・イソシギ・サギ類などが確認されている。イカルチドリ・コチドリ・イソシギは広い砂礫地を好む鳥類である。下流部では、砂州によって河口に形成された広大な静水域があり、水際はサギ類やシギ類がエサ場として利用しているほか、カモメ類・カモ類・カワウやチドリ類などの集団越冬地となっている。また河口部では、魚類食のレッドデータブック準絶滅危惧種ミサゴのほか、セキレイ類やその他のズズメ目も多く確認されている。また、広大な川原の砂礫地にはレッドデータブック絶滅危惧 類コアジサシ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧 類シロチドリ、イカルチドリなど、砂礫地で営巣する鳥類が確認されている。



カワセミ

平地から低山の河川、湖沼に生息し、都市公園にも見られる。小魚を食べ、その美しさから広く親しまれている。

(下土居知子氏 撮影)



ミサゴ

湖沼・大河川・海岸など生息し魚食性。  
(下土居知子氏 撮影)



コノハズク

深い森の中で繁殖する。フクロウの仲間。



コアジサシ

広大な川原の砂礫地を好んで生息している。

(下土居知子氏 撮影)

安倍川流域の昆虫類は、上流部の山岳地帯では無脊椎動物レッドリスト(環境庁)準絶滅危惧種に該当するクモマツマキチョウが確認されているほか、中流部ではオオムラサキ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧 類ハネビロエゾトンボなどが確認されている。まとまった河畔林が少ない下流部では、河川敷の昆虫類は、全体的に草地性の普通種が多い。中・下流部の河川環境と関わりの深い特徴的な種として、草地性のシブイロカヤキリモドキ・クロモンヒラナガゴミムシ、カワラケツメイを食餌植物とする無脊椎動物レッドリスト(環境庁)絶滅危惧 類のツマグロキチョウ、ヤナギを食餌植物とする静岡県版レッドリスト分布上重要種コムラサキ、樹林性のウシカメムシ・ウスバカミキリ・ネプトクワガタ、川原に生息する静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種ヤマトバッタ、同リスト情報不足種ハマスズのほかカワラゴミムシなど、水生の同リスト絶滅危惧

類ハネビロエゾトンボのほかヤブヤンマなどがあげられる。



オオムラサキ  
雑木林に生息、食餌植物はエノキ。  
(大封裕介氏 撮影)



コムラサキ  
食餌植物はコゴメヤナギ。  
(大封裕介氏 撮影)



ハネビロエゾトンボ  
細流を伴う湿地や、落ち葉等が  
堆積した流れの緩い小河川などに  
すむ。

中・下流部は河床が不安定であることから、河川敷における植物相と昆虫相は上流から下流に向かうにつれ種類数が少なくなる傾向が見られるが、鳥類や魚類は河口域における確認種類数が多く、流域全体を見ると多様な生物種が確認されている。

## 2-2 河川及びその周辺の自然環境

### 上流部の自然環境

安倍川上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、濁川からコンヤ沢の源流部にはブナ・ミズナラの原生林が残存するほか、<sup>みこうち</sup>三河内川の源流部はオオイタヤメイゲツをはじめとするカエデ類の純林の分布地となっている。さらに安倍の大滝や<sup>さんだん</sup>三段の滝、<sup>あかみず</sup>赤水の滝などの点在する滝が変化に富む渓谷美を形成している。河川にはイワナ・アマゴ・タカハヤ・カジカ等の溪流魚が生息し、溪流周辺には中・高山帯に分布しているヒダサンショウウオ・ハコネサンショウウオ・ナガレタゴガエルなどが確認されている。



安倍の大滝

安倍川の支流、逆川の安倍の大滝。日本の滝百選に選ばれている



オオイタヤメイゲツ林

三河内川の源流部にはオオイタヤメイゲツなどのカエデ類の純林がある。



赤水の滝

### 中流部の自然環境

安倍川中流部は、スギ、ヒノキ等の人工林が多く、山間部を流下する流路は蛇行し、点在する淵と長く続く早瀬や平瀬が特徴的で、流入する支流には<sup>くろべ</sup>黒部沢の<sup>てんじん</sup>天神滝、<sup>やえ</sup>八重沢の大滝等の景勝地がある。

河川敷には裸地の川原が広がっているが、流路が不安定なため河川敷全般に植生の分布は少なく、オオヨモギ・フジアザミ・カワラハハコなど川原特有の植物が生育し、比較的安定したところはヤナギ林・ヤシャブシ林等の河畔林も見られる。

河畔のヤナギ林はヤナギ類を食樹とするコムラサキの生息場所であり、カワラケツメイの生育している川原はツマグロキチ



河川敷のヤナギ林

河川敷の比較的安定した場所にはヤナギの疎林が見られる（15km 付近）。



ツマグロキチヨウ

食餌植物はカワラケツメイ。  
（大封裕介氏 撮影）

ヨウの生息環境となっている。魚類では、アユ、オイカワなどが生息している。

また川原の広い裸地はイカルチドリのほかコチドリ・イソシギなど砂礫地を好む鳥類の生息場所となっている。

### 下流部の自然環境

下流部は扇状地を形成し、広い低水敷の中を流路は網状に流れる。洪水時には河床や流路が大きく変動するため、河道内の樹木は少なく、比高の大きい場所ではコゴメヤナギ群落なども見られるがその面積は小さい。渇水時には流水が伏没する区間も見られ、河床や流路が不安定であることから、生物相は豊かでないが、特有の自然環境が形成されている。

河口から 1.25 km 付近の右岸には湧水を水源とするクリークがみられ、ここでは地元ボランティアによる環境づくりがなされ、地域の人々には、緑が多く水の流れに淀みのない魅力的な場所、自然体験学習ができる場所となっている。河口から 5.5 km にわらしな藁科川が合流し、合流点付近には河道中央に浮かぶように見える舟山がある。舟山ではアラカシなどの常緑広葉樹の自然林と林床にシダ類が生育し、砂礫河川で流路が安定せず裸地が多い安倍川においては特異な植物相を形成している。

河口部は発達した砂州により広い汽水の静水域が形成され、水際の浅瀬はサギ類のエサ場として重要な機能を果たしているほか、カモメ類・カモ類・カワウ・チドリ類などの集団越冬地としても利用されている。また、回遊性の魚類であるシロウオや、カマキリなどが確認され、産卵場所となっている可能性が高い。

川原の広い裸地は、コアジサシ・シロチドリ・イカルチドリなど砂礫地に営巣する鳥類の生息場所となっている。



安倍川河口部  
河口は発達した砂洲でふさがれ、広い静水域が見られる。



安倍川 1.25k 付近右岸のクリーク  
湧水を水源とするクリーク。



舟山  
河道中央に浮かぶように見える舟山。アラカシなどの常緑広葉樹林と林床はシダ類が生育する。

また、河口部の植物では、河川の水際に生育するカワヂシャのほか、抽水植物のミクリ、干潟に生育する塩性植物でレッドデータブック絶滅危惧類のシバナ、流れの緩やかな水域に生育する沈水植物のホザキノフサモなどが確認されており、生育立地の多様さを物語っている。

## 葦科川<sup>わらしな</sup>の自然環境

葦科川は水田地帯に人家が点在する山間地を蛇行しながら流下し、安倍川 5.5 km 右岸に合流している。

河道は砂礫州によって瀬と淵が形成されており、流路は網状を呈する。流路沿いにはツルヨシ群落やクズ・ススキ等の草本群落、コゴメヤナギ群落などが認められている。葦科川の 1.5 km 付近には舟山同様に岩盤上に成立している木枯<sup>こがらし</sup>の森があり、アラカシなどの常緑広葉樹の自然林が残っている。

木枯<sup>こがらし</sup>の森は平安時代から駿河国の歌枕として名高く、「森はうへきの森。岩田の森。木枯<sup>こがらし</sup>の森」等と詠まれ、静岡県の名勝に指定されてきた。

木枯の森の上流側にある水たまりはカモの集団分布地となっており、カワラケツメイを食草とするツマグロキチョウのほか、無脊椎動物レッドリスト（環境庁）絶滅危惧 類ミヤマシジミ、コムラサキなど、昆虫類の良好な生息場所となっている。また川原の広い裸地はチドリ類等、砂礫地を好む鳥類の生息場所となっている。



木枯<sup>こがらし</sup>の森  
河川に形成された小島で常緑広葉種の貴重な自然林が残る。

### 安倍川における重要な種

既往の河川水辺の国勢調査により確認された種、または文献による記載が確認されている重要な種は、以下に示す特定種一覧表のとおりである。特定種は、植物8種、両生類7種、爬虫類1種、哺乳類5種、鳥類19種、魚類12種、底生動物2種、陸上昆虫類15種である。

安倍川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
カワラノギク	危惧 IB/(静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×	×		聞き取り調査
ミゾコウジュ	準危惧/(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	×	×	聞き取り調査 (場所不明)
シバナ	危惧 /(静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×		×	
カワラニガナ	危惧 /(静岡レッドリスト) 準絶滅				×	
ウスゲチョウジタデ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×		×	
キンラン	危惧 /(静岡レッドリスト) 準絶滅	×		×	×	
ミクリ	準危惧/(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×		×	
カワヂシャ	準危惧	×				

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック8植物」(環境庁、2000)における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト(静岡県、2003.4)における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IA：同上 絶滅危惧 IA 類

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1(直)：平成11年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、2002)

水国2(直・砂)：平成5年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1994)

- \*)：河川水辺の国勢調査確認種  
 ：「文献調査」、「聞き取り調査」  
 ×：確認なし

安倍川で確認された両生類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ヒダサンショウウオ	(静岡レッドリスト) 危惧 類			×	×	
ハコネサンショウウオ	(静岡レッドリスト) 危惧 類		×	×	×	
カジカガエル	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×				
モリアオガエル	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×		×	×	
アズマヒキガエル	(静岡レッドリスト) 部会注目			×	×	
ナガレタゴガエル	(静岡レッドリスト) 情報不足			×	×	
トノサマガエル	(静岡レッドリスト) 部会注目	×				

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック3 爬虫類両生類」（環境庁、2000）における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IA：同上 絶滅危惧 IA 類

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1（直・砂）：平成9年度安倍川（安倍川・藁科川）小動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国3（直・砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

\*)：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

安倍川で確認された爬虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ニホントカゲ	(静岡レッドリスト) 分布上					

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック3 爬虫類両生類」（環境庁、2000）における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト(静岡県、2003.4)における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

文献 1：平成 3 年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1992)

文献 2：平成 4 年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1993)

文献 3：平成 9 年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1998)

水国 1(直・砂)：平成 9 年度安倍川(安倍川・藁科川)小動物調査報告書(静岡河川工事事務所)

水国 2(直・砂)：平成 4 年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1993)

水国 3(直・砂)：平成 3 年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1992)

\*)：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

x：確認なし

安倍川で確認された哺乳類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ヤマネ	準危惧/(静岡レッドリスト)情報不足		×	×	×	
カヤネズミ	(静岡レッドリスト)準絶滅	×		×		
ホンドモモンガ	(静岡レッドリスト)情報不足			×	×	
キクガシラコウモリ	(静岡レッドリスト)準絶滅		×	×	×	
ニホンリス	(静岡レッドリスト)部会注目			×	×	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック1 哺乳類」（環境庁、2002）における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト(静岡県、2003.4)における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IA：同上 絶滅危惧 IA 類

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1(直・砂)：平成9年度安倍川(安倍川・藁科川)小動物調査報告書(静岡河川工事事務所)

水国2(直・砂)：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1993)

水国3(直・砂)：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1992)

\*)：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

安倍川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
オオワシ	国天/保存/危惧 / (静岡レッドリスト) 分布上	×	×		×	
ミサゴ	準危惧/(静岡レッドリスト)部会注目種	×	×		×	
クマタカ	保存/危惧 B/(静岡レッドリスト)危惧類		×	×	×	
イヌワシ	危惧 B/(静岡レッドリスト)危惧 A類		×	×	×	
コノハズク	(静岡レッドリスト) 危惧危惧 IB	×		×	×	
ブッポウソウ	(静岡レッドリスト) 危惧危惧 IA	×		×	×	
オオタカ	保存/危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧類	×	×		×	
ハヤブサ	保存/危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧類	×			×	
チュウサギ	準危惧	×			×	
ハイタカ	準危惧/(静岡レッドリスト)危惧類	×	×			
コアジサシ	危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧 IB					
コジュリン	危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧類	×	×		×	
ヤマセミ	(静岡レッドリスト) 危惧類			×		
イカルチドリ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×				
シロチドリ	(静岡レッドリスト) 危惧類	×	×			
タゲリ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	×		
ヤマドリ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	×		
タカブシギ	(静岡レッドリスト) 危惧	×	×	×		
ヨシゴイ	(静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×			

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック2 鳥類」（環境庁、2002）における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IA：同上 絶滅危惧 IA 類

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成10年度安倍川（安倍川）鳥類調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直）：平成6年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1995）

\* )：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

安倍川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
スナヤツメ	危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×	×	×	場所不明
メダカ	危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧 類				×	
シロウオ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧 IA	×	×		×	
イドミミズハゼ	不足 / (静岡レッドリスト) 危惧 IA					
カマキリ (アユカケ)	(静岡レッドリスト) 準絶滅					
カジカ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×		×	×	
シマドジョウ	(静岡レッドリスト) 部会注目					
タカハヤ	(静岡レッドリスト) 部会注目			×		
タモロコ	(静岡レッドリスト) 部会注目	×	×			
カワアナゴ	(静岡レッドリスト) 部会注目	×	×		×	
カワヨシノボリ	(静岡レッドリスト) 部会注目	×				
アマゴ	(静岡レッドリスト) 部会注目			×		

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧 IA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック4 汽水・淡水魚類」（環境庁、2003）における絶滅危惧 IA 類

危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧 IA：同上 絶滅危惧 IA 類

(静岡レッドリスト) 危惧 IB：同上 絶滅危惧 IB 類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成12年度安倍川水系（安倍川・藁科川）魚介類調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成7年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1996）

水国3（砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国4（砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

\*)：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

安倍川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
モノアラガイ	準危惧/(静岡レッドリスト)準絶滅	×		×		
ニホンアマカモドキ	危惧	×		×	×	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧Ⅰ：「無脊椎動物レッドリスト」（環境庁、2000）における絶滅危惧Ⅰ類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト）絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト）危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト）危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

（静岡レッドリスト）危惧：同上 絶滅危惧 類

（静岡レッドリスト）準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト）不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト）部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト）分布上：同上 分布上注目種

水国Ⅰ（直）：平成12年度安倍川（安倍川・藁科川）底生動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国Ⅱ（直・砂）：平成9年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1998）

\*）：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

安倍川で確認された陸上昆虫の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ツマグロキチョウ	危惧					
ミヤマシジミ	危惧 / (静岡レッドリスト) 準絶滅	×				
オオムラサキ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 部会注目種			×	×	
ヘイケボタル	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×		×		
ハネビロエゾトンボ	(静岡レッドリスト) 危惧	×		×	×	
クモマツマキチョウ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧		×	×	×	
チャマダラセセリ	危惧 / (静岡レッドリスト) 危惧 B	×		×	×	
オオチャイロハナムグリ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 情報不足		×	×	×	
ギンイチモンジセセリ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 分布上		×	×	×	
ベニヒカゲ	準危惧 / (静岡レッドリスト) 分布上		×	×	×	
フジミドリシジミ	(静岡レッドリスト) 部会注目種			×	×	
ヤマトバッタ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×		×	×	
ヒゲコガネ	(静岡レッドリスト) 情報不足	×	×			
コムラサキ	(静岡レッドリスト) 分布上					
ハマスズ	(静岡レッドリスト) 情報不足	×		×	×	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧Ⅰ：「無脊椎動物レッドリスト」（環境庁、2000）における絶滅危惧Ⅰ類

危惧：同上 絶滅危惧 類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

(静岡レッドリスト) 危惧：同上 絶滅危惧 類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 情報不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成13年度安倍川水系（安倍川・藁科川）陸上昆虫等調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成8年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1997）

\* )：河川水辺の国勢調査確認種

：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

区間別環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など

区間	環境要素	種群	代表的種	集団分布地・繁殖地など	
上流 大河内砂防ダム(34km)より上流	渓流	魚類	イワナ・アマゴ*・ニジマス・タカハヤ*・メダカ*・カマキリ* シマドジョウ*・イドミミズハゼ*	冷水性魚類生息域	
		植物	オオヨモギ・フジアザミ・カワラハハコ・ヤナギ・ヤシャブシ林 カワラニガナ*		
	大谷崩	清流	鳥類	イヌワシ・クマタカ*・オシドリ・ヤマセミ*・キセキレイ・イワツバメ コアシサシ*	イワツバメの 集団繁殖地
		両生・ 爬虫類	ヒダサンショウウオ*・ハコネサンショウウオ*・タゴガエル ナガレタゴガエル*・アズマヒキガエル*・ニホントカゲ*		
		哺乳類	ホンドモモンガ*・ヤマネ*・ニホンカモシカ・コウベモグラ・ノウサギ アカネズミ・タヌキ・イタチ・キクガシラコウモリ*・ニホンリス*		
		昆虫	ウスバシロチョウ・ツマジロウラジャノメ・ツマグロキチョウ* クモツマキチョウ*・ウラクロシジミ・ヒメオオクワガタ・ オオムラサキ*・コムラサキ*・アカタテハ・ハグロトンボ		
安倍川中流・支川 13.5 ~ 34.0 km	広い川原	魚類	アマゴ*・アユ・タカハヤ*・カジカ*・ズナガニゴイ・オイカワ・ウグイ アブラハヤ・カマキリ*・シマヨシノボリ・オオヨシノボリ・メダカ* カワヨシノボリ*・シマドジョウ*・イドミミズハゼ*・モノアラガイ*	アユ産卵場所	
		植物	ケヤキ・ハンノキ林・ヤナギ林・ツルヨシ草地・単子葉草本群落 ・ヤシャブシ・カワヂシャ*・カワラニガナ*・キンラン*		
	ヤナギ林	鳥類	ヤマセミ*・カワセミ・ブッポウソウ*・コノハズク*・ハヤブサ* イカルチドリ*・コチドリ・イソシギ・サキ類・スズメ・カワラヒワ ツバメ・ハシボソガラス・チュウサギ*・コアシサシ*	スズメ・ツバメ のねぐら	
	伏流水	両生・ 爬虫類	ヒダサンショウウオ*・モリアオガエル*・カジカガエル*・トノサマガエル* タゴガエル・ツチガエル・ヌマガエル・アマガエル・ナガレタゴガエル* アズマヒキガエル*・カナヘビ・ヒバカリ・ヤマカガシ・ニホントカゲ*		
	支流(中河内川・河内川)	哺乳類	ニホンカモシカ・ホンドモモンガ*・コウベモグラ・ノウサギ アカネズミ・カヤネズミ*・タヌキ・ニホンリス*		
		昆虫	ニホンアミカモドキ*・ツマジロウラジャノメ・チツゼミ・ムカシトンボ ヘイケボタル*・ハネビロエゾトンボ*・シブイロカヤキリモドキ クロモンヒラナガゴミムシ・ウシカメムシ・ウスバカミキリ ネプトクワガタ・コムラサキ*・ハマスズ*・カワラゴミムシ・ヤブヤンマ クロコノマチョウ・ツマグロキチョウ*・ミヤマシジミ*・オオムラサキ* ヤマトバツタ*		
下流 0 ~ 13.5 km	汽水・砂州・扇状地	魚類	ウグイ・スミウキゴリ・ヌマチチブ・カマキリ*・シロウオ* イドミミズハゼ*・アユ・ウグイ・ウナギ・オイカワ・ヌマチチブ カワヨシノボリ*・カワアナゴ*・タモロコ*・シマドジョウ*・メダカ*	シロウオ・カマ キリ産卵場所	
		植物	コゴメヤナギ林・カワラヨモギ・オオアレチノギク・シオクグ ハマヒエガエリ・シバナ*・ホザキノフサモ・ミクリ*・カワヂシャ* カワラニガナ*・ウスゲチョウジタデ*		
	ヨシ群落	鳥類	ウミネコ・ユリカモメ・コアシサシ*・カワウ・カモ類・アオサギ・ ミサゴ*・シロチドリ*・イカルチドリ*・ヨシゴイ*・オオワシ* オオタカ*・ハヤブサ*・チュウサギ*・ハイトカ*・コジュリン*	カモ類・カモ 類の集団越冬 地	
	ヤナギ林	両生・ 爬虫類	トノサマガエル*・ツチガエル・ヌマガエル・アマガエル カナヘビ・ニホントカゲ*・アオダイショウ・カジカガエル*		
	湧水	哺乳類	ハクビシン・タヌキ・イタチ・コウベモグラ・ネズミ類		
		昆虫	コムラサキ*・ミヤマシジミ*・ツマグロキチョウ*・ヒゲコガネ*		
藁科川	平瀬	魚類	オイカワ・ウグイ・アブラハヤ・アユ・カマキリ*・モノアラガイ* ズナガニゴイ・カワヨシノボリ*・イドミミズハゼ*・シマドジョウ* タカハヤ*・タモロコ*・アマゴ*		
		植物	コゴメヤナギ林・ツルヨシ群落・カワヂシャ*・カワラノギク*		
	川原	鳥類	ヤマセミ*・カワセミ・カワウ・セグロセキレイ・タカブシギ*・ヨシゴイ* ハイトカ*・コアシサシ*・イカルチドリ*・シロチドリ*・タゲリ* ヤマドリ*	カモ類集団越 冬地	
		両生・ 爬虫類	ツチガエル・ヌマガエル・トノサマガエル*・アマガエル・ カナヘビ・ニホントカゲ*・カジカガエル*		
		哺乳類	タヌキ・イタチ・コウベモグラ・カヤネズミ*・ネズミ類		
		昆虫	ツマグロキチョウ*・ミヤマシジミ*・コムラサキ*・ヒゲコガネ* ヘイケボタル*		

\*特定種

## 安倍川を特徴づける場所

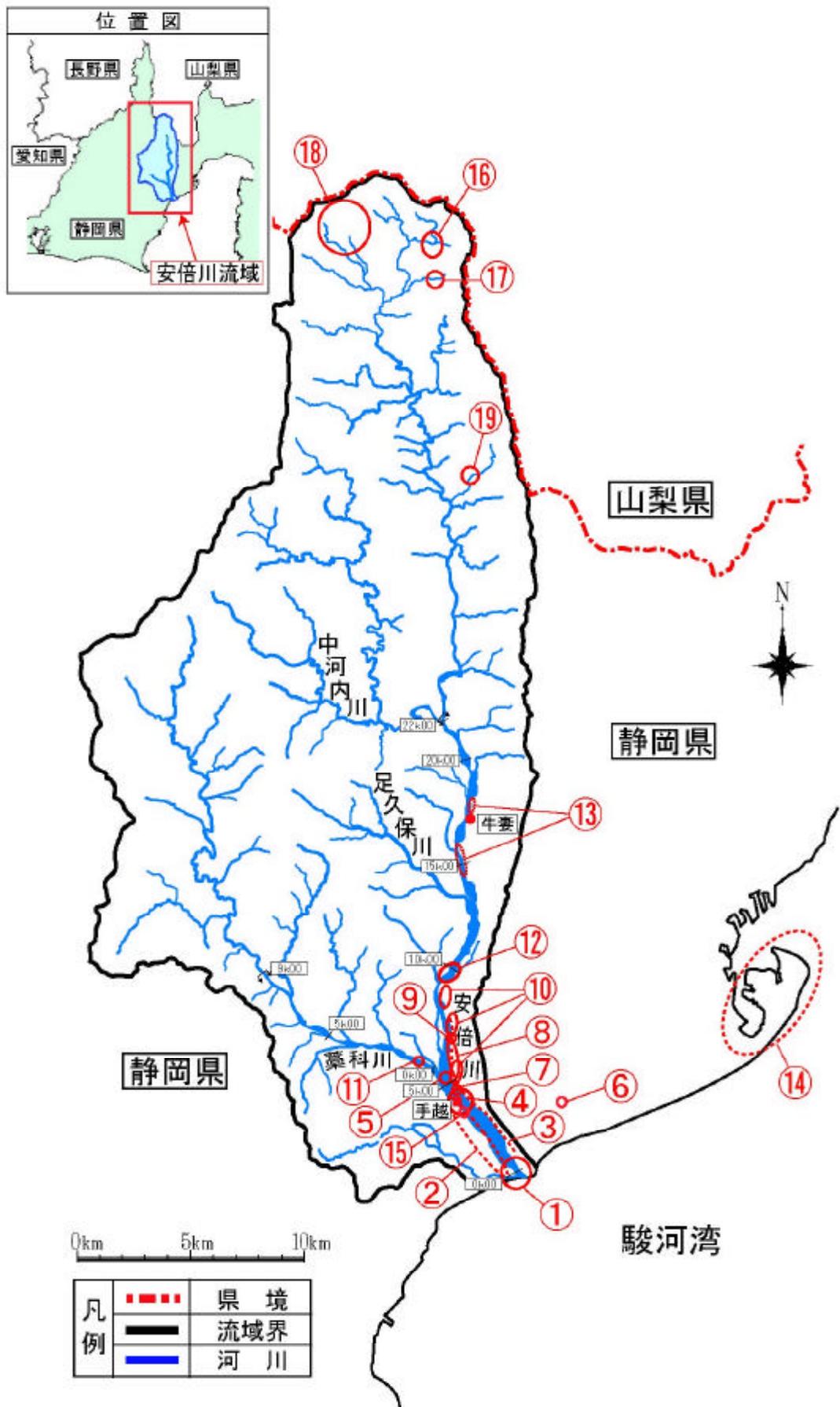
安倍川を特徴づける場所（安倍川らしさを代表する場所）として、有識者ヒアリング（平成 13 年 2 月～3 月調査）及び学識経験者等で構成される「安倍川流域懇談会」（平成 13 年 3 月～7 月開催）において、以下の 19 箇所が抽出されている。

安倍川を特徴づける場所一覧表

安倍川らしさを代表する場所	位置	内容
河口地区	河口（-0.3k～0.5k）	富士山や南アルプス、伊豆半島を背景に、広い砂礫堆の間を流れる安倍川と海岸を見ることができる場所である。また、河口部の野鳥や水辺の植物を観察できる。
右岸から富士山を背景に見る安倍川	安倍川右岸（0.2k～4.2k 付近）南安倍川橋、静岡大橋、駿河大橋、安倍川橋	右岸から見る安倍川は、富士山や南アルプス、賤機山、市街地が一体となった景観を感じさせる。
緊急用河川敷道路	安倍川（0.7k～7.5k 付近）左岸高水敷上	震災時には、緊急用道路として人員や救援物資を円滑に運搬し、平時にはジョギングや散歩、サイクリング等で川に親しみのもてる空間となっている。
広大な河川敷を利用した花火大会	安倍川左岸 5k 付近	広い河川敷を利用して行われる安倍川花火大会は、多くの市民に親しまれており、その歴史も 50 年と長い。
ふなやま 舟山	安倍川と藁科川の合流点（安倍川 5.3k 付近）	安倍川の特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。また、古くからの悲しい伝説と、昔ながらの河川工法である川倉（牛杵）が残っており、歴史的雰囲気なたたえている。
弥生時代後期の稲作文化を伝える登呂遺跡	静岡市登呂	登呂遺跡は、安倍川の氾濫で自然にできた堤防の上に発達した集落が洪水で埋没したものであり、豊かな伏流水がもたらした稲作文化を示すものと言える。
親水公園	安倍川橋上流左岸（5.0k 付近）	高水敷を利用した親水公園は、水遊びや憩いの場として地域住民に親しまれている。
安倍川と藁科川の合流点付近の薩摩土手	安倍川左岸（3.5k～7.0k 付近）	徳川家康が駿府に隠居する際に築堤したもので、この付近は駿府の町づくりを象徴する地域である。
やなぎはし 柳橋スポーツ広場	安西橋上流左岸（6.2k 付近）	市民の憩いの場として活用されている広場。河川敷のスポーツ公園、水遊びなど様々な目的で楽しむことができる。
かすみでい 霞堤	安倍川左岸 7～10k 付近、左岸 13～14k 付近、藁科川右岸 1k、4k 右岸付近など	霞堤は、急流河川「安倍川」の水害、治水の歴史を物語る場所である。先人の知恵を知ることができる安倍川の歴史的な財産である。

安倍川を特徴づける場所一覧表

	安倍川らしさを代表する場所	位置	内容
	<small>こがらし</small> 木枯の森	<small>まきがやばし</small> 牧ヶ谷橋上流（藁科川 1.5k 付近）	水面と緑のコントラストは美しく、古くは紅葉、しぐれ、雪の名所として古歌に詠まれた場所でもある。歴史的なロマンがあふれ、地域住民にも親しまれている。
	狩野橋上流の砂礫が堆積する河原	狩野橋上流（安倍川 9.5k 付近）	狩野橋上流の砂礫堆積地は河原砂漠的なイメージがあり、水と砂利による「川ずれ」（流路変動）の作用や、急な傾斜を流れ下る安倍川を実感させる。
	伏流水の取水口とヤナギ林	安倍川左岸 15k 付近	安倍川の伏流水を静岡市の上水として取水している。この付近のまとまったヤナギ林は、安倍川の自然を代表する場所である。
	<small>みほ</small> 三保半島	三保半島	三保の松原は万葉の昔から数多くの歌に詠まれ、愛され続けている白砂青松の景勝地となっている。
	清流のアユ釣り	安倍川右岸 4k 付近	市内の身近な場所でアユ釣りが楽しめる。大河内砂防えん堤より下流は横断構造物がないため天然アユが遡上する。
	上流の溪流や滝の景観	安倍の大滝、三段の滝、赤水の滝、黒部沢、逆川、三河内川、中河内川	水源地の滝と溪流の景観は、水質の良好な安倍川のイメージに相応しい。
	<small>うめがしま</small> 梅ヶ島等の金山	静岡市梅ヶ島	梅ヶ島では昔から砂金の採取が行われていた。本格的に金鉱石の採取が始まったのは、今川氏の時代からである。
	<small>おおやくずれ</small> 大谷崩	安倍川 51k 付近	日本三大崩れの一つである大谷崩は、ダイナミックで荒々しい安倍川の象徴的な景観である。
	わさび栽培発祥の地（有東木）	静岡市 <small>うとうぎ</small> 有東木	今から約 400 年前、有東木で自生していた「わさび」を水を引いて栽培したのが始まりといわれている。



安倍川らしさを代表する場所



河口地区  
(出典:「静岡・清水海岸保全事業概要パンフ」静岡県静岡土木事務所)



右岸から富士山を背景に見る安倍川



緊急用河川敷道路



広大な河川空間を利用した花火大会



舟山



安倍川の稲作文化を伝える登呂遺跡



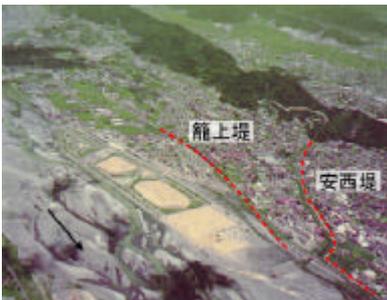
親水公園



安倍川と藁科川の合流点付近の薩摩土手



柳橋スポーツ広場



霞堤



木枯の森



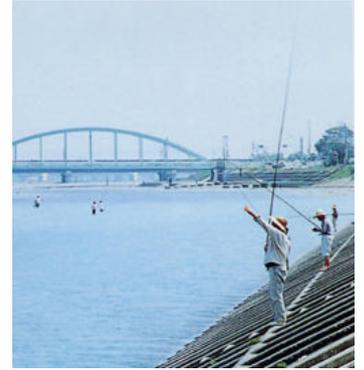
狩野橋上流の砂礫堆積の河原



伏流水の取水口とヤナギ林



三保半島  
(出典:「静岡・清水海岸保全事業概要  
パンフ」静岡県静岡土木事務所)



清流のアユ釣り



上流の溪流や滝の景観  
(安倍の大滝)



梅ヶ島等の金山  
(出典:静岡市市勢要覧)



大谷崩



わさび栽培猕祥の地(有東木)

## 2-3 特徴的な河川景観や文化財等

### (1) 特徴的な河川景観

安倍川最上流部は、<sup>あくおおい</sup>奥大井県立自然公園に指定されており、緑豊かなすぐれた自然環境が数多く残されている。安倍川上流部には<sup>おおやくずれ</sup>大谷崩をはじめとして、山間溪流及び埋積谷とともに、多くの滝や河岸段丘崖など変化に富んだ河川景観が見られる。中流部には蛇行する流れが形成する早瀬や淵がみられ、広い川原が形成されており、中流部の特徴的な河川景観を呈している。また、静岡市の市街地を貫流する下流部には扇状地が形成され、河道には砂州の発達した網状流路がみられるなど、下流部特有の河川景観をみせている。

安倍川流域の代表的な河川景観としては、上流部では<sup>おおやくずれ</sup>大谷崩、安倍の大滝が、中下流部では<sup>ふなやま こがらし</sup>舟山・木枯の森等があげられる。

<sup>おおやくずれ</sup>大谷崩は日本三大崩れの一つに数えられる崩壊地であり、安倍川を特徴付けている。

安倍の大滝は、日本の滝百選（\*1）に選定されるとともに、観光名所として賑わいをみせている。

安倍川と藁科川の合流点付近には、河道内の小島となっている舟山があり、安倍川の特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。

また、<sup>わらしな</sup>藁科川の最下流部には、河道内に<sup>こがらし</sup>木枯の森があり、平安時代から<sup>するが</sup>駿河国の歌枕として名高く、静岡県の名勝に指定されてきた。

#### <sup>おおやくずれ</sup>**大谷崩**

日本三大崩れの一つに数えられる崩壊地の景観が安倍川を特徴付けている。



（\*1）日本の滝百選：平成2年に、環境庁と林野庁の協力を得て、緑の文明学会、グリーンルネッサンス、緑の地球防衛基金の3つの団体の主催による日本の滝選考会が選定した滝。

あべ おあたき  
**安倍の大滝**

安倍川上流部の支川である逆川<sup>さかさかわ</sup>の豊かな水が落差約90m、垂直に切り立った岩の上から力強く流れ落ちる。(出典：安倍川渓流環境整備計画パンフレット)



ふなやま  
**舟山**

安倍川と藁科川の合流点付近の河道中央部に形成されており、特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。



こがらし もり  
**木枯の森**

藁科川の中州に形成されている小さな森で、平安時代から駿河国の歌枕として名高い場所である。





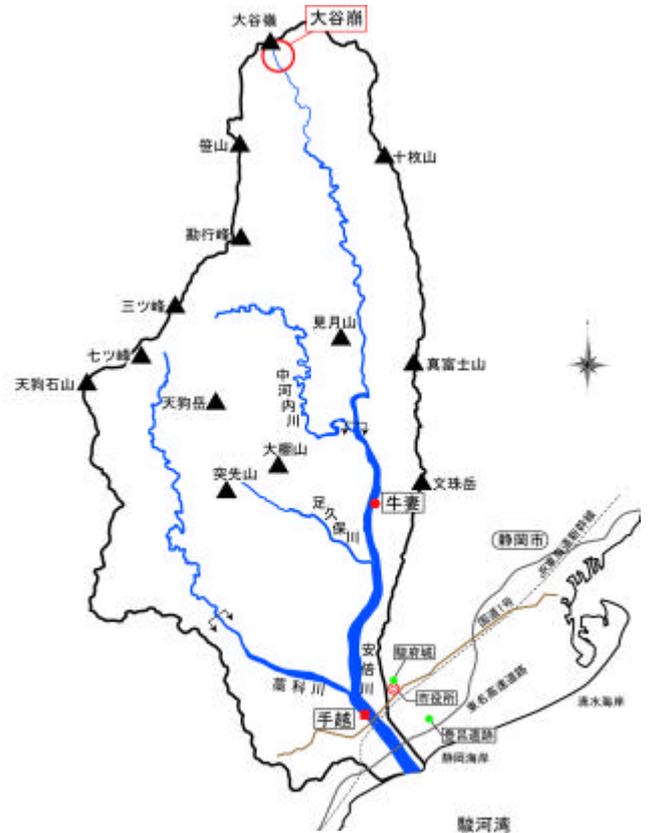
## 2-4 河川にまつわる歴史・文化

古来より安倍川は、平時には人々に豊かな恵みの水を与えける母なる川であった。しかし、その急峻な地形と崩れやすい地質に加え、流域の降水量が多いこともあり、いったん洪水となるとその流れは狂暴な濁流と化し、多くの災害をひきおこしてきた。それらの幾多の洪水により運ばれた土砂により、下流部の肥沃な静岡平野が形成された。そこでは登呂の稲作文化が発展するとともに、その後も東西文化の要所として歴史的な発展をとげ、流域の人々のくらしと川との色濃い関わり合いの中から、この地の歴史と文化が生み出されてきた。

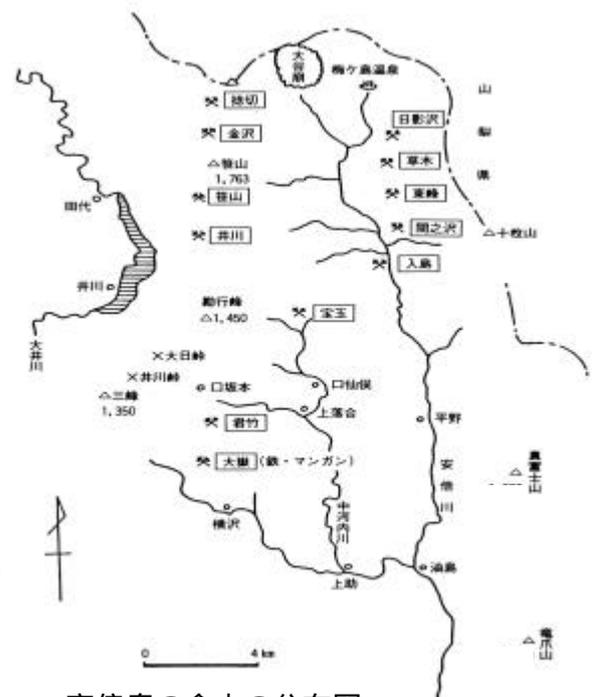
安倍川流域に人が住み始めたのは、遺跡等の調査によりおよそ1万年以前の先土器時代といわれている。縄文時代には平野部から山間部に至る広い範囲に人々の生活の場が広がった。弥生時代に入ると、稲作技術の伝来により生活の中心が下流部の沖積平野に移っていった。特に、弥生時代後期の集落様式と当時の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として有名な登呂遺跡からは、水田跡、井戸跡、用水路跡、丸木船など“人と川”との深い関わりがみとれるさまざまな遺物が出土している。

安倍川の河川名となっている“安倍”の語源については、この地に居住した阿部氏<sup>あべ</sup>に由来する説が最も有力と考えられている。「駿河国新風土記」に「安倍という語意は”饗(あえ)”の遺名として考えられ、政治的行事である饗宴<sup>きょうえん</sup>を担当していたために安倍という姓になった」と述べられている。

その後、奈良時代には国府が置かれ、「万葉集」にも見られるように「市」が形成され、この地方の文化の中心的位置をしめるようになった。また、東西交流の動脈として東海道が発展し、安倍川下流部には左岸に駿河府中<sup>するがふちゅう</sup>が、右岸には手越<sup>てごし</sup>の宿、丸子の宿<sup>まりこ</sup>といった宿場が形成されていった。



安倍川流域の現状



安倍奥の金山の分布図

(出典：「静岡の地学」)

このように兩岸に宿場が形成されたのは安倍川の流れが常に変化し容易に渡ることができず川留めされたことを示している。

その後、<sup>いまがわ</sup>今川氏の時代には、今川館を中心とした城下町が発展し、交通路の整備、安倍奥の<sup>うめがしま</sup>梅ヶ島金山をはじめとする金山の開発などが行なわれた。

そして、<sup>とくがいえやす</sup>徳川家康の領国時代に入ると、大規模な<sup>すんぶ</sup>駿府のまちづくりが行われた。<sup>すんぶ</sup>駿府城の築城とともに、城下町の整備・拡張や<sup>すんぶ</sup>駿府用水の建設、また流域内において次々と新田開発が行われ、新田を守るために川側に堤防（霞堤）の築堤が盛んになった。

この新田開発は、また人々と洪水とのたたかいでもあった。安倍川における新田開発の特徴は、新田を洪水から守るため堤防（霞堤）を新田の川側に修築したことである。安倍川流域で新田開発が始まったのは 1500 年代末頃といわれている。

この後も明治期の<sup>わらしな</sup>藁科川の治水碑や中流部左岸の<sup>もろおか</sup>諸岡山にある横堤の改築に伴う<sup>ゆうこうていひ</sup>有功堤碑、さらに大正期の大水害後の堤防改修に尽力した知事の名を残す「湯浅堤」にちなむ安倍川修堤碑など、流域のあちこちに多くの治水碑が残されており、人々と水とのきびしいたたかいの歴史を物語っている。

一方、安倍川は人々に洪水の災厄をもたらすだけでなく、田畑を潤し、飲水を与え、生物を育むという豊かな恵みを与えてくれている。安倍川での水利用の代表的なものとしては、慶長 12 年（1607 年）徳川家康が駿府城の修築を行った際、それに並行して安倍川の水を取水して利用した「<sup>すんぶようすい</sup>駿府用水」である。この用水は飲料水ではなく、駿府城下から出る中水（雨水）の処理機能を有し、町の浄化のみならず火災時には防火用水としても役だっていたものである。

その後も新田などのかんがい用水として利用され、明治期には宝暦年間以来の組合が安倍川および<sup>くじらが いけ</sup>鯨ヶ池の水利用のため、<sup>とよだむら</sup>豊田村外三か村かんがい用水組合として設立され、流域の開墾に大きな役割を果たした。



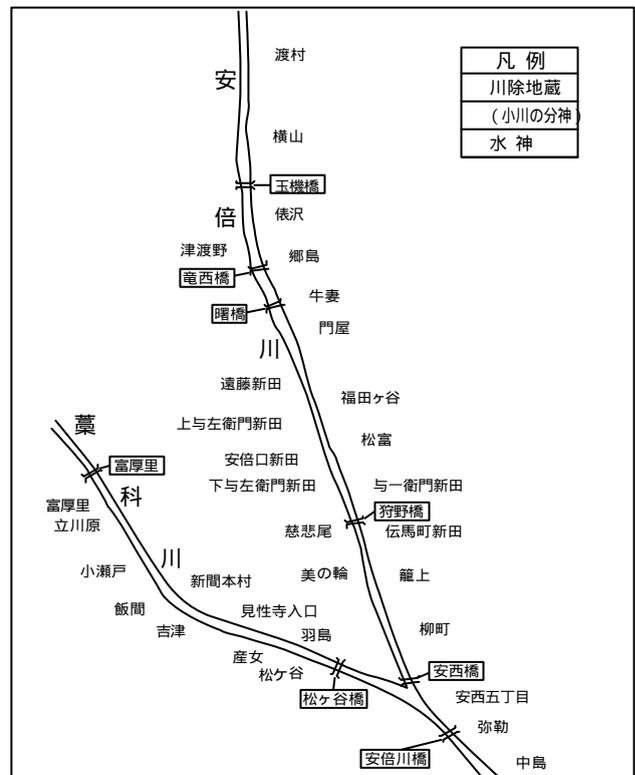
駿府用水図  
(出典：「静岡市史」)

近年に至っても安倍川の水は、かんがい用水だけでなく、伏流水を水源とした静岡市の水道用水や静岡地区の工業用水としても利用されている。また、<sup>わらしな</sup>藁科川上流部では発電用水として利用され、人々に豊かな恵みを与えてくれている。

安倍川流域では、川を利用した舟運による林業や東海道の交通路の要所として茶屋や宿場町の発展に伴うさまざまなくらしと職業がみられるようになった。とくに江戸時代以降、安倍川の<sup>かわごえにんそく</sup>川越人足、安倍川の上・中流域で伐り出した材木や炭などを筏や舟で運んだ筏人足や舟人足、安倍川の増水で川留めとなった旅人のため茶屋や宿、安倍川に流した材木を集める木場人足や材木商人など様々な職人や職業が生まれ、人々のくらしと川との深い関わりを強めていった。同時に安倍川の清流は、この地方の温暖な気候と相まって、わさびやお茶、みかんなどの特産品を生み出すことにも寄与してきた。一方で古くからあった安倍川の渡し船は江戸時代の川越制度により禁止され、明治期まで架橋ができなかったり、交通路としての舟運も道路交通の発達に伴い大正期に廃止されるなど、時代と共に消えた川の歴史もまた多く見られる。

このように、長い歴史の中における安倍川と人々との関わりは、くらしの中に自然の豊かな恵みへの感謝と喜び、いまわしい洪水などへの恐れと不安に対するさまざまな信仰や伝説を生みだし、芸能や文学などを育み現在に語り継がれてきた。度重なる洪水やかんばつの災厄に、水神の怒りに触れたものと恐れおののき、犠牲者の鎮魂の場として人々は水辺に深い祈りの場を形作ってきた。安倍川の川筋のいたる所にみられる<sup>かわよけ</sup>川除地蔵と水神社がそれである。

また、古くからこの地に根を下ろした各宗派の寺院や「白髭<sup>しろひげ</sup>さん」と呼ばれる白髭神社が多く残されており、人々の信仰をあつめてきた。中でも下流域にある<sup>せんげん</sup>浅間神社は古く、とくに徳川氏の崇敬が厚く、今でも4月の<sup>はつかえ</sup>廿日会祭が盛大に行なわれている。これら四季折々のくらしの中で、人々は自然の豊かな恵みと無病息災を祈念して神楽や盆踊りといった郷土芸能を生み出し今日まで伝え続けてきた。中でも梅ヶ島新田や<sup>おおかわ きよさわ</sup>大川・清沢地区の神楽、有東木・平野地区の盆踊りがよく知られている。安倍川・藁科川流域は古くから木材の産地で、人々の生活は山と樹木に深いつながりを有し、木枯の森及び舟山は「木魂<sup>こだま</sup>伝説」に由来する場所として村人達の樹木信仰の対象として崇められてきた。



安倍川・藁科川の川除地蔵と水神分布図  
(出典：「安倍川と安倍街道」)

古くより多くの旅人達がそれぞれの運命を背負い、哀しみや喜びを胸に安倍川を渡っており、それらの旅情は歌となり日記となり物語りとなって書き残されてきた。代表的なものは、本川下流部の万葉集歌碑や藁科川に残る中勘助<sup>なかかんすけ</sup>の詩碑や木枯の森に残る花野井有年<sup>はなのいありとし</sup>の歌碑・<sup>もとありのりなが</sup>本居宣長の碑などがあげられる。

#### 安倍川流域の民俗芸能ごよみ

名 称	施 行 日	所 在 地	備 考
日向の七草祭 (田遊び)	旧1月7日	日向・福田寺観音堂	旧暦を守り、だいたい2月に行われる。同じ演目が二度繰り返される。
梅ヶ島新田の神楽	旧2月初午	梅ヶ島新田・稲荷神社	大井川・安倍川流域に広く分布する神楽の「安倍井川型」に属する代表的な神楽である。
湯の森神楽	4月1日 10月10日	湯の森・白髭神社	新田と戸持の両集落が奉納していたが、最近では新田の人たちが主力となっている。
平野の神楽	4月3日 10月16日	平野・白髭神社	
廿日会祭の古式稚 児舞楽(*2)	4月5日	浅間神社	静岡まつりの最中に行われるため注目する人が少ない。蛇の模型を持って舞う演目はここだけのもの。
口坂本の神楽	7月15日	口坂本・白髭神社	「安倍井川型」の湯立て神楽
有東木の盆踊り	8月14日 8月15日	有東木・東雲寺	
平野の盆踊り	8月14日 8月15日	平野・少林院	
梅ヶ島の盆踊り		梅ヶ島本村	明治40年まで行われていたが、同年8月藤代の土砂崩れ被害以降絶えてしまった。
中平の盆踊り		中平	大正時代に2・3年行ったが、今は絶えている。
渡の盆踊り		渡	昭和40年頃まで行われていた。
八幡神社の子供相 撲	8月15日	八幡・八幡神社	相撲は裸の技舞である。この日は境内で軍配の玩具が売られる。
柿島の神楽	10月10日	柿島・白髭神社	4年に一度、飾り立ての呪術が優れている。「安倍井川型」の代表的なもの。
清沢の神楽(峰山)	10月13日	黒俣(峰山)・子之神社	
清沢の神楽(中塚)	10月14日	黒俣(中塚)・子之神社	現在行われていない。

(\*2) 浅間神社の祭りを廿日会祭と称するのは、江戸時代以前には2月20日が祭日だったからで、明治時代にはいったん衰え、再興した時、旧暦の季節に合わせて4月に祭りを移したもので、現在は桜の季節に行われている。(出典:「静岡県の祭ごよみ」静岡県民族学会編)

## [安倍川にまつわる歴史・文化]

### 登呂遺跡

登呂遺跡（約 1800 年前）は、かつての安倍川の氾濫によってできた微高地（自然堤防）上に発達したものだといわれている。

昭和 27 年特別史跡に指定されてから考古学者をはじめ、社会科学研究の資料として全国から学生や生徒の参観が絶えない。遺跡は、住居跡、倉庫跡、水田跡、森林跡などが明らかにされ、現在、家屋と倉庫を復元し、当時の建築様式を知ることができる。弥生時代後期の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として全国的に有名である。



登呂遺跡

安倍川の氾濫によってできた微高地（自然堤防）上に発達し、弥生時代後期の集落が栄えたとされ、弥生時代後期の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として有名。

### 安倍金山

安倍川上流では古くから砂金が採取されていた。金山採掘が歴史の表舞台に登場したのは今川氏の領国（1351～1568）になってからである。井川・梅ヶ島・大河内・玉川などの各金山は今川氏の安倍金山と総称され、今川氏の治領時代には梅ヶ島金山が中心で、享禄年間（1528～1532）が元栄の時代といって最盛期であった。その後、今川氏の滅亡にともない武田氏の領有になり、武田氏亡き後は徳川氏の領有となった。

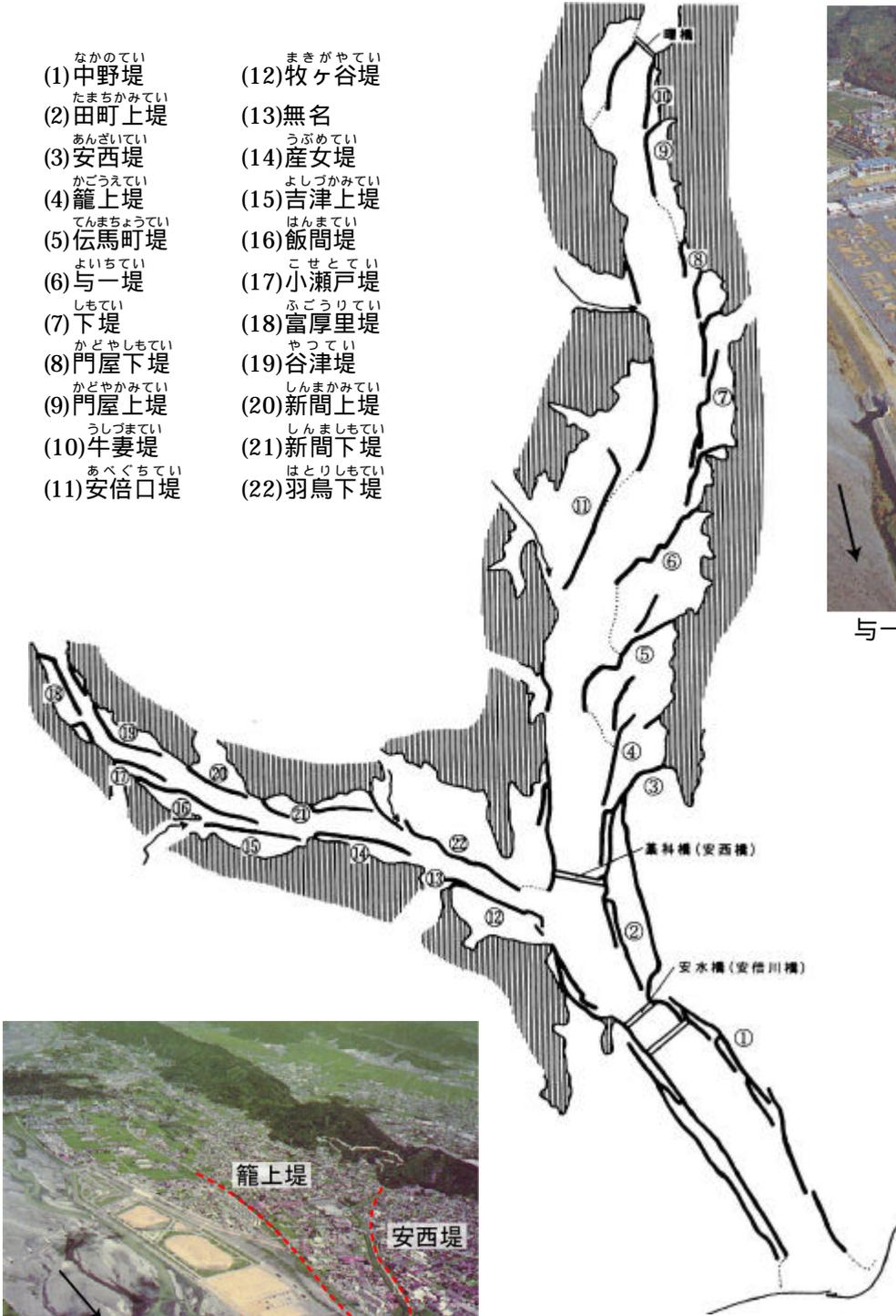


梅ヶ島の金山

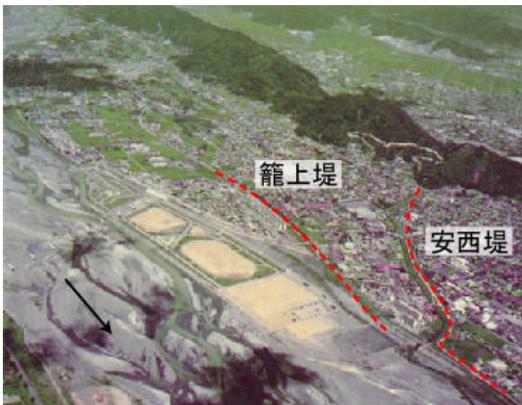
今川氏の治領期には梅ヶ島の金山が中心で元栄といって最盛期であった。（出典：静岡市市勢要覧）

# 霞堤の分布

- |                                     |                                     |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 中野堤<br><small>なかのてい</small>     | (12) 牧ヶ谷堤<br><small>まきがやてい</small>  |
| (2) 田町上堤<br><small>たまちがみてい</small>  | (13) 無名                             |
| (3) 安西堤<br><small>あんざいてい</small>    | (14) 産女堤<br><small>うぶめてい</small>    |
| (4) 籠上堤<br><small>かごうえてい</small>    | (15) 吉津上堤<br><small>よしづかみてい</small> |
| (5) 伝馬町堤<br><small>てんまちょうてい</small> | (16) 飯間堤<br><small>はんまてい</small>    |
| (6) 与一堤<br><small>よいちてい</small>     | (17) 小瀬戸堤<br><small>こせとてい</small>   |
| (7) 下堤<br><small>しもてい</small>       | (18) 富厚里堤<br><small>ふこうりてい</small>  |
| (8) 門屋下堤<br><small>かどやしもてい</small>  | (19) 谷津堤<br><small>やつてい</small>     |
| (9) 門屋上堤<br><small>かどやかみてい</small>  | (20) 新間上堤<br><small>しんまかみてい</small> |
| (10) 牛妻堤<br><small>うしづまてい</small>   | (21) 新間下堤<br><small>しんましもてい</small> |
| (11) 安倍口堤<br><small>あべくちてい</small>  | (22) 羽鳥下堤<br><small>ほとりしもてい</small> |



与一堤



籠上堤・安西堤

## 霞堤の分布

安倍川・葦科川における直轄管理区間の堤防は、本川下流部の堤防を除きほとんどが霞堤となっている。

### 薩摩土手

古くから薩摩土手は薩摩(島津)藩が築堤したと伝えられてきたが、近年の研究では資料・文献上、薩摩藩が慶長年間に築いたという確かな記載のないことがわかっている。

有史以来の大築堤工事によって、田畑は潤い、また安倍川の西からの攻撃を押さえる重要な堀の役目も持つことになった。

現在の安倍川左岸を駿河大橋(3.5k付近)から安西堤(6.5k付近)を沿って賤機山に向かって伸びている。



薩摩土手

(出典：静岡市市勢要覧)

### 駿府城址

徳川家康は、関ヶ原の合戦に勝利し、慶長8年(1603)江戸に幕府を開いて後、すぐ慶長10年(1605)に将軍職を秀忠に譲った。

慶長12年(1607)駿府に隠居し、元和2年(1616)死去するまでの9年間、実際の決定権を持ち“大御所政治”として駿府で采配を振るった。

家康は駿府を隠居の地と定めるとすぐ、城の修築に掛かり、わずか5ヶ月間で出来上がり入城した。家康は城の修築とともに、駿府の町づくりも行った。



駿府城址

(出典：静岡市市勢要覧)

### 藁科川治水碑

藁科川の治水に努めた36人の功績を称えた徳富蘇峰の詩が刻まれている。木枯の森(藁科川1.5k付近)の八幡神社の前に建てられている。



藁科川治水碑

### 安倍川修堤碑

大正3年の水害で被害を受けた堤防の改修に尽力を注いだ湯浅知事の功績を讃え、大正13年8月に地元有志により建てられた記念碑で、碑の建っている堤防(6.5k左岸付近)は「湯浅堤」と呼ばれている。



安倍川修堤碑

### 有功堤碑

安倍川中流部左岸の諸岡山にある石碑で洪水に効果のあった横堤（13.0k 左岸付近）が安政2年6月の洪水で流出し、その後廃止されたが村民の強い要望により明治8年2月に改めて築造された。この碑には横堤の有効性が述べてある。



有功堤碑

### 川越え風景

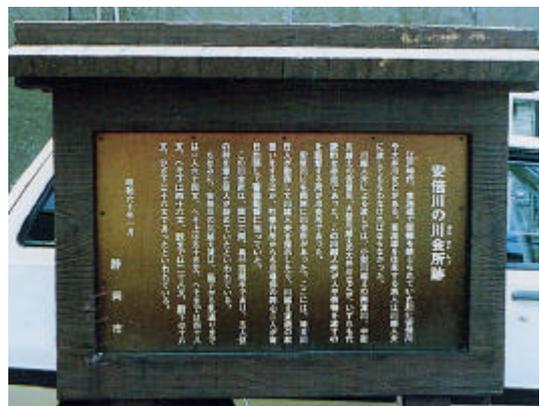
安倍川に古くから渡し船があったが、江戸時代の正徳年間（1711～1716）に川越の制度が設けられ、堤添町・弥勒町・手越村（4k 付近）に川会所が置かれ、明治3年（1870）まで約150年間続いた。川越えの様子を再現したのはこの写真にある一度だけである。



川越え風景（岩本昭市氏撮影）

### 川会所跡の説明板

川会所は川役人が勤務し、川越人足の監督や川越料金の取り扱いをしていた所である。現在の安倍川橋（4k 付近）左岸に位置する。



川会所跡の説明板

### 安倍川義夫の碑

大事な財布を落とした旅人と落と物に気が付いて届けた川越人足・喜兵衛の双方の善行を称え、昭和4年に安倍川橋（4k 付近）の東端に立てられた石碑。

財布を届けてもらった旅人は、感謝して礼金を渡そうとしたが、固辞されたため、町奉行所へ申し出た。奉行所は旅人に礼金を返し、改めて自分の金を川越人足に与えたといわれている。



安倍川義夫の碑

### 安倍川架橋碑

安倍川橋（4k 付近）の架橋を記念して弥勒公園内に建立された石碑。題字は徳川家達により書かれたもの。



安倍川架橋碑

### わさび栽培発祥の地

大河内の有東木はわさび発祥の地として知られている。石碑によると 300 年ほど前から始まり、当初は村民が野生のわさびを自家用に食していたのが、次第に栽培が進み、天明9年(1798)ごろから商品として売り出された。安倍川地域のわさび栽培はこの有東木を中心に、俵峰や梅ヶ島などで行われている。



わさび発祥の地記念碑

安倍川上流の有東木はわさび栽培の発祥の地。400 年前の慶長年間に始まったとされている。

（出典：「しずおか水を育む森 50 選」  
静岡県森林保全課）

### 中流部の斜面に広がる茶畑

安倍茶は室町時代には全国的に知られており、江戸時代には徳川將軍家の御用茶となり茶の栽培も盛んに行なわれ重要な産業として発展している。



中流部の斜面に広がる茶畑

### まきがや かわよけ 牧ヶ谷にある川除地蔵

安倍川・藁科川流域には各所に地蔵尊像が見られる。藁科川 1.8k 付近右岸などの川辺りに建つ「川除地蔵」は川の災害から人々を守るように祈願を込めて建てられたものである。



牧ヶ谷にある川除地蔵

なかのしんでん かわよけ  
中野新田にある川除地蔵

藁科川 2.5k 付近左岸の中野新田にある川除地蔵は、江戸時代中期以前に築造された堤防の上に祀られており、地蔵尊像には安永9年(1780)11月の年紀銘がある。



中野新田にある川除地蔵

たわらざわ かわよけ  
俵沢にある水神社

安倍川 21.5k 付近左岸の堤防の上に祀られた水神社。6月中旬の田植え終いに幟が張られ豊作祈願が行なわれる。稲作に必要な水を得るために、また洪水から水田を守るために堤防に祈りを込めたのであろう。



俵沢にある水神社

うしづま  
牛妻にある水神社

牛妻の坂下地区の北端で曙橋(17k 付近)の手前に祭られた水神社。牛妻は安倍川上流部への船運の基地で、船頭や筏師が自分達は勿論のこと、船や筏の安全をも祈願したのであろう。



牛妻にある水神社

### 弥勒にある水神社

『駿河国新風土記』に江戸時代の寛文年間（1661～1673）に祀られたとある。東海道（安倍川橋 4.0k 付近）を行き交う人々に水の害が及ぼさないよう祈ったのであろう。



弥勒にある水神社

### 浅間神社

浅間神社は、神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の三社を総称したもので、古くから信仰を集めているが、特に徳川氏の崇敬が厚く、現在ある社殿も徳川氏によって建てられている。

4月に行なわれる廿日会祭は、静岡まつりと連同して盛大に行なわれている。

第二次世界大戦後、名称を富士山本宮浅間神社と変更し、さらに昭和 57 年 3 月 11 日富士山本宮浅間大社と変更して現在に至っている。



浅間神社

7 歳で人質として駿府に送られた竹千代（後の徳川家康公）は 14 歳の時に、浅間神社で元服式を行ったといわれている。

（出典：静岡市市勢要覧）

### 21 木枯の森・舟山

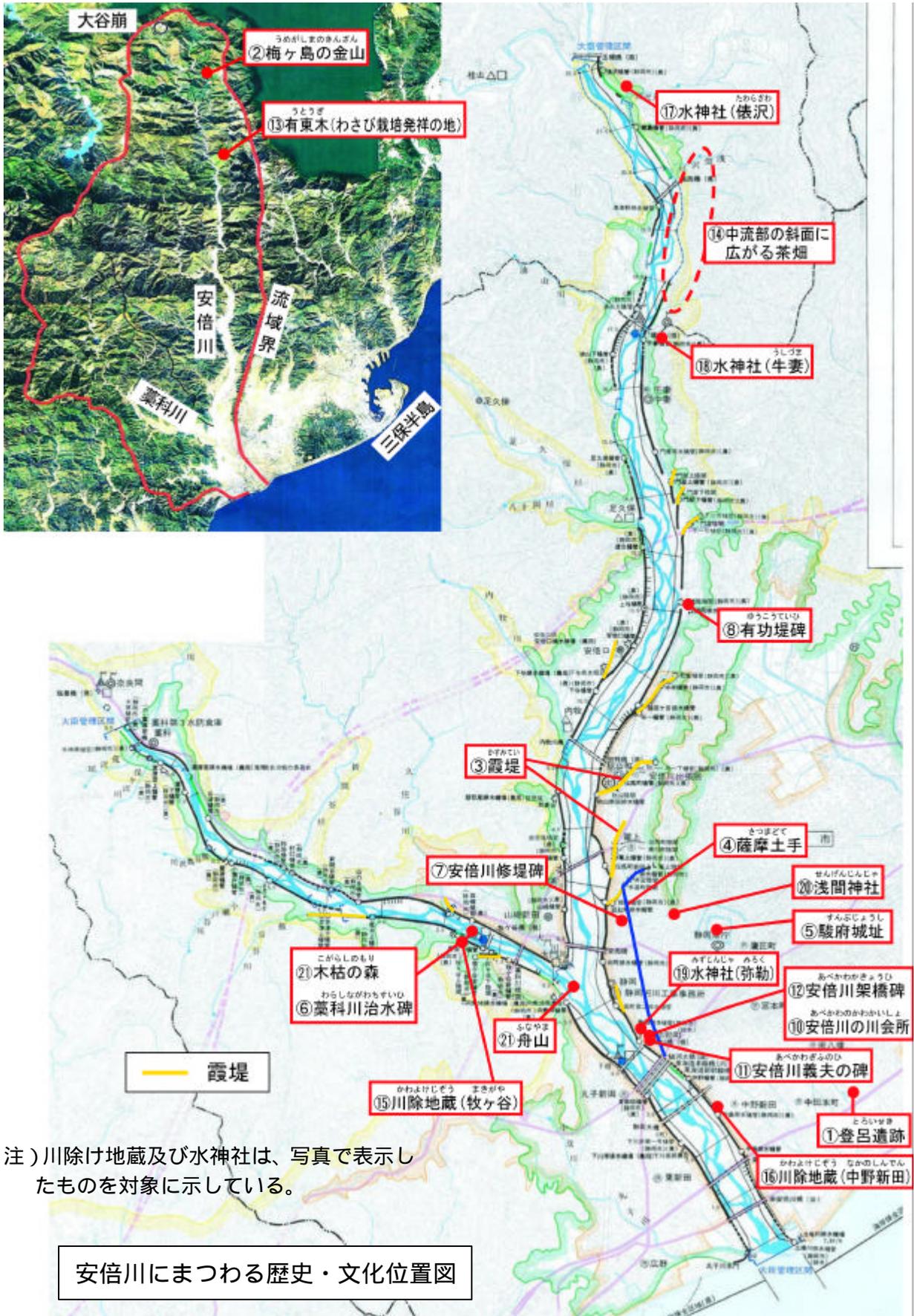
安倍川・藁科川流域は古くから木材の産地で人々の生活は樹木と深いつながりがあった。

藁科川の木枯の森（藁科川 1.5k 付近）及び安倍川の舟山（安倍川 5.5k 付近）は、藁科川上流の日向の里（藁科川 17k 付近）に伝わる「木魂伝説」に由来する場所で、村人の樹木に対する信仰と深い関わりがあった



木枯の森

木枯の森は駿河国の歌枕として名高い場所であり、「森はうへきの森。岩田の森。木枯の森」等と詠まれている。



## 2-5 市民活動

安倍川流域の河川に関連した市民団体としては、「安倍川フォーラム」が、水辺への関心、自然環境に対する市民意識の高まりにつなげていくことを目標に安倍川を守り育てる活動を行っている。

また、静岡県内の河川で活動している市民団体として「静岡流域ネットワーク」があり、静岡県内のさまざまな「川・池・沼」を舞台に活動している個人や団体の方に「自分たちの川、池、沼」を発表してもらい、会場全員による公開審査を行うという「しずおか川自慢大賞」開催などの活動を行っている。



イベント開催状況

安倍川フォーラムでは、きれいな安倍川を守り育てるイベントを開催し、地域の人々が参加している。



いかだ流し

安倍川フォーラム主催イベントで行われた「いかだ流し」の再現。

## 2-6 自然公園等の指定状況

安倍川流域の北端沿いの十枚山～大谷嶺～笹山～勘行嶺にかけての地域は奥大井県立自然公園に指定されており、南アルプス登山の南玄関口としても知られている。特に、静岡県と山梨県との県境になっている安倍峠付近では、全国的にも珍しいオオイタヤメイゲツの巨木群が見られ、学術参考保護林となっている。流域内には、鳥獣保護区7カ所、銃猟禁止区域2カ所が指定されている。

また、安倍川流域では、梅ヶ島水源の森、わさび山水源の森、栃沢水源の森の3地区が静岡県により「しずおか水を育む森50選」に選定されている。

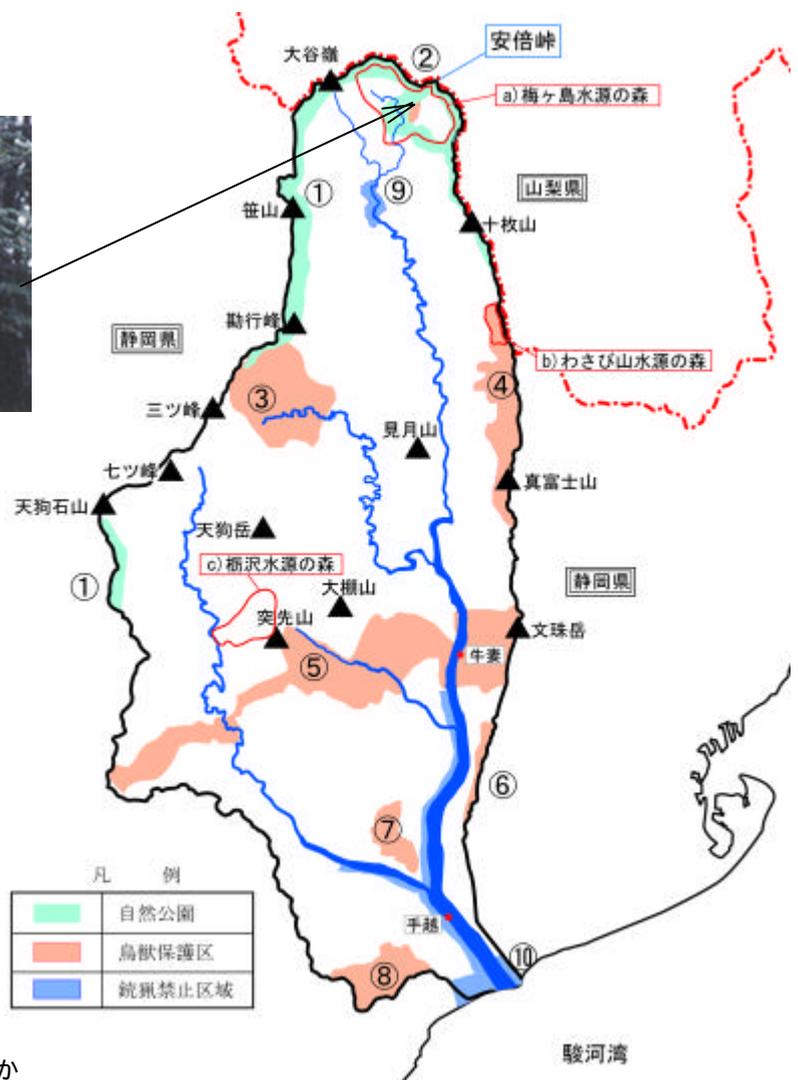


オオイタヤメイゲツ林

自然公園
奥大井県立自然公園

鳥獣保護区
梅ヶ島中学校野鳥愛護林
区坂本鳥獣保護区
大河内鳥獣保護区
東海自然歩道静岡鳥獣保護区
賤機山鳥獣保護区
洞慶院鳥獣保護区
高草山鳥獣保護区

銃猟禁止区域
コノヤ沢温泉銃猟禁止区域
安倍川河口銃猟禁止区域



\* ) a～cは、安倍川流域内の「しずおか水を育む森50選」選定地区を示す。

安倍川流域自然公園・自然環境保全地域配置図  
【出典：静岡県鳥獣保護区等位置図（平成14年度）】



a) 梅ヶ島水源の森

この森で育まれた水は、梅ヶ島集落で生活用水として利用されているほか、下流域における水道用水などの供給源となっている。



b) わさび山水源の森

この水源の森から供給される水は、一定の水温で多量な清流が必要とされるわさび栽培の条件を満たしており、400年もの間わさび栽培に利用されてきた。



c) 栃沢水源の森

栃沢川の清流は、地区の飲料水のほか、お茶やわさび栽培の農業用水として利用されている。

また、この地区は、「静岡茶の始祖」といわれている壘一園師の出生地でもある。

出典：「しずおか水を育む森 50 選」  
静岡県森林保全課

「しずおか水を育む森 50 選」：  
静岡県内の代表的な水源地帯の森林を広く紹介することを目的として、平成 8 年に静岡県が選定した 50 森林。

安倍川流域における「しずおか水を育む森 50 選」選定地区

	地区名	概要
a	梅ヶ島水源の森	場所：静岡市梅ヶ島 面積：1200ha 主な樹種：スギ、ヒノキ、カエデ等
b	わさび山水源の森	場所：静岡市有東木 面積：167ha 主な樹種：スギ、ヒノキ
c	栃沢水源の森	場所：静岡市栃沢 面積：374ha 主な樹種：スギ、ヒノキ